

# 平成30年度青森県（八戸地域）地域医療構想調整会議

## 【議事要旨】

日 時 平成30年8月29日（水）午後5時～午後7時

場 所 きざん八戸2階「ブラン」

### （1）報告事項

#### ①地域医療構想等の進め方等

#### ②平成29年度病床機能報告の結果

事務局から、①について資料1、参考1、参考2、参考3、②について資料2-1、資料2-2、資料2-3に基づいて説明。

質疑はなかった。

### （2）協議事項

#### ①病院の機能分化・連携の方向性

#### ②地域医療構想の実現に向けた病床の有効活用

事務局から、①について資料3、②について資料4に基づいて説明、案件ごとに意見交換を行った。

#### ①病院の機能分化・連携の方向性

##### ○八戸市立市民病院

（資料7に基づいて）

・新設する緩和ケア病棟は、終末期の悪性腫瘍に罹患している在宅療養中の患者の容態悪化の際の受入れ、症状安定までの疼痛管理、一時的な入院など在宅療養の後方支援を担うものであり、病床機能報告上は回復期機能となる。

→地域医療介護総合確保基金の活用については、異議等なく合意が得られた。

##### ○三戸中央病院

・休棟中として報告している46床は、元々一般病床であるが、今までの形での再開は難しいと考えており、今後、療養病床にするか、外来等で活用するか様々、検討中である。

・回復期として報告している47床についても、8床が休床している状況である。

・病床利用率の向上に向けて、医師・看護師一丸となって取り組んでいきたい。

##### ○五戸総合病院

・当院は、病床を全て急性期として報告しているが、回復期相当の地域包括ケア病床が23床あり、病床利用率が高いことから、今後、増やすことを検討しており、実績づくりを頑張っている。

- ・理学療法士を地域包括ケア病床の専従とすることにより、院内で手薄となるため、来年度に向けて1名募集しているところである。

- ・来年度、地域連携室に看護師を1名増員し、退院調整などの面で周辺の介護施設との連携を強化することとしている。

#### ○南部町医療センター

- ・ここ数年安定的に病床稼働率90%を達成している。
- ・資料に記載のあるとおり、在宅医療に力を入れており、関係機関と連携して取り組んでいる。

#### ○おいらせ病院

- ・当院では、地域包括ケア病床への回復期及び慢性期の患者が増えてきた一方で、救急、急性期、高度な医療を要する患者については、近隣の高度な医療機能を有する医療機関にお願いする割合が増えている。

- ・今後は、地域の介護施設等と連携して、回復期及び慢性期の医療を充実させていく。

#### ○室岡整形外科

- ・法人化に伴い、名称が室岡整形外科病院から室岡整形外科記念病院と名称が変更になった。

- ・過去の勤務経験から、整形領域に関しては、地域の基幹病院にベッドの空きがなく、救急患者を受け入れられない状況が続いていると認識しており、当院ではそこを埋めるためにも、引き続き救急を担う急性期病床を継続していく予定としている。

### ③公的医療機関等2025プランについて

策定の対象となっている八戸赤十字病院、青森労災病院、国立病院機構八戸病院からそれぞれ資料5-1、資料5-2（別途持参資料有）、資料5-3に基づき、プランに関する説明があった。

質疑応答はなかった。

### ④平成37年（2025年）に向けた病院の対応方針の協議について

事務局から資料6に基づいて説明を行った。

質疑応答はなかった。

### ⑤基金の活用について

（①病院の機能分化・連携の方向性の中で協議を行ったことから省略した。）

## ⑥新たな病床の整備について

事務局から資料8に基づいて、ナンブクリニックに関する特例病床の設置について説明を行った。

意見・質問等がなかったことから、地域に必要な病床と認めた上で県の医療審議会に諮ることとなった。

## (3) その他

### ①在宅医療等確保の方向性

### ②基金を活用した補助制度

事務局から参考4、参考5に基づいて説明を行った。

#### ○八戸歯科医師会

・そもそも地域医療構想では、歯科の役割が位置付けられているにもかかわらず、システムやプログラムがないまま「訪問歯科診療をやってくれ。」と歯科医師会に丸投げされている現状であると認識している。

・地域医療構想においては、回復期及び慢性期にある患者が継続的で適正な歯科診療を受けることにより、病状が大きく改善するが、在宅医療の中の訪問歯科診療についてのみ重要視されていると感じる。

・訪問歯科診療に一生懸命に取り組んでいる先生方はごく少数いるものの、地域の歯科医師の高齢化が進む中、会としてどう対応していくべきか頭を悩ませている。

#### ○三戸郡医師会

・在宅医療の必要性は理解しつつも、新たに訪問歯科診療に取り組むのは難しい。

・県で訪問歯科診療に関するやり方や考え方を統一するなどシステム（新たに参入しやすくする方法）を作っていただけるとありがたい。

#### →（事務局）

訪問歯科診療に関しては、これまで主に県歯科医師会を中心に相談窓口の設置や、訪問歯科診療の機器整備、あるいは訪問歯科車両の整備といった形で、個別の訪問歯科診療を増やしていただくための補助を実施してきた。

歯科医師が高齢化していく中で、また、訪問診療ができる歯科医師が限られていく中で、仕組みとして、どうしていくのかと、まさに、今度は次のステップは、そういったところに対応していかなければならないだろうと痛感したところである。

基金を活用した支援で、是非、同趣旨の提案をいただき、基金を活用した仕組みづくりに対する支援を実施させていただきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

#### ○八戸薬剤師会

- ・昨年、基金の補助を受けて、訪問薬剤管理指導を実施した経験のある薬局、薬剤師が未経験者に同行して訪問するお試し訪問という事業を実施させていただいた。
- ・同時に在宅医療とスムーズに連携できるよう講習会等を開催した。
- ・今後、在宅医療の普及に向けては、無菌室、無菌製剤への対応というのが、必要となっていくが、県内においては、青森市に無菌室を設備した薬局があるものの、八戸市においては、目下検討中であり、32年4月から供用を開始する薬局に無菌室を完備した、無菌製剤に対して対応できるよう準備を進めていきたい。

#### ○青森県看護協会

- ・地域医療構想を踏まえた地域包括ケアにおける看護提供体制の構築についての取組として、在宅施設等の看護機能の強化、包括的な母子支援のための看護機能の強化、看護職の役割拡大の推進と人材育成などの取組を行っており、具体的には、病院から在宅まで、切れ目なく看護を繋ぐための地域包括ケア看護実践育成者コースの開講、在宅施設などにおける看護職のリーダーマネジメント能力の向上研修、小児在宅移行支援実現に向けた人材育成の推進、更に特定行為に係る研修制度の活用の推進として、看護管理者、専門看護師、認定看護師を対象に情報交換会などで周知活動を行っている。
- ・在宅医療のニーズが非常に高まっており、高齢の患者に加えて、精神障害者の地域への移行、医療的ケア児の増加等によって訪問看護の利用者は多様化し、また、在宅での看取りも推進されており、訪問看護の役割は量的にも質的にも大きくなっている。
- ・県には、訪問看護体制の確保、強化に向けてサービスを安定的に供給するための訪問看護ステーションの大規模化、例えば基金等による支援の拡充や小規模事業所の統合、再編策の検討、それから看護職の人材育成の支援を引き続きお願いしたいと考えている。

#### ○八戸市医師会

- ・ナンプクリニックについて、この調整会議でお認めいただき、感謝申し上げます。この地域にとって、非常に大事な病床であるため、今後ともよろしくお願ひしたい。
- ・県の思いもよく分かるのだが、病床数を拙速に減らして、居宅あるいは老健に、そのような予定なのであろうが、八戸地域にあっても、訪問診療は現状ギリギリでやっている。これからさらに在宅医療等の患者が増えるということになると、医療難民、介護難民が出現しかねないと思うので、物事は慎重に進めなければならないと思っている。